

今年の新会員は310人

体育館で同窓会入会式

今年の新会員は三百十人。平成二十二年度の秋田高校同窓会入会式は、卒業式前日の二月二十八日、多数の同窓会関係者も参列して、本校体育館で行われた。

豊口祐一同窓会長（昭和34年卒）が「先輩は、多くの分野で活動している。これらの

「旅立ちの日に」

ケアタウン小平クリニック

鈴木道明（昭和59年卒）

同窓会入会式
講演要旨

同窓会入会、ご卒業おめでとうでございます。皆さんの晴れの門出、旅立ちの日ではありませんが、私の今の仕事はもう一つの旅立ちをお手伝いすることなので、二つの旅立ちをかけ合わせてお話ししたいと思います。

私は鳥海山のふもとの旧矢島町で生まれました。ちょうど三十年前に秋高に入学し、そして秋田大学に入り、二十四歳で東京の病院での研修に旅立ちました。呼吸器内科医となり、いろいろしながらみできて、秋田に戻れず今日

人脈を、みなさんの財産として活用していただく。みなさんは秋高で三年間勉強に励んだように、努力すること。信念を持って努力を継続すれば、目的は必ず達成できる」と歓迎の挨拶をした。続いて、東京・小平の医師、鈴木道明氏（昭和59年卒）が

「旅立ちの日に」と題して、激励の言葉を述べた。

藤盛節子同窓会副会長（昭和43年卒）から、新入会員に記念品（校章メダル付き携帯ストラップ）が贈られ、これを受けて、山中佑美さんが「この会に出て、これからの人生としての高校卒業を実感した。今後はOBとして秋田高校に貢献して行きたい」と述べ、全員で校友会歌を斉唱、式を終えた。



したい。しかし治らない病気が最後まで寄り添う。いろいろ考えて、患者さんの人生の後半の方に重点を置いて、「ときに治し」よりも「しばしば和らげ、常に慰める」ことに取り組もうと思いい、病院を辞めました。

現在、二十四時間対応の在宅診療専門クリニックに勤務し、主に緩和ケアを行っております。がんなどの病気による症状やつらさを和らげる、言い換えれば患者さんとさらにご家族がよりよく生きることを支えるのが緩和ケアです。我々は家での看取りも含めて在宅療養のサポートをしています。家の方が不安も症状も少なく、安らかに旅立たれる印象があります。

家で過ごす患者さんやご家族を見てみると、ヒトはヒトとつながってれば最後までしっかりと生きられるような気がします。そしてたとえ家族がいない人でも、自分を認めてくれる誰かが、一緒にいて寄り添ってくれる、その思いがあれば、「孤独」ではなく、たぶん生きられます。

高校生の頃から「自由」「自分らしさ」などについて考えてきました。たとえば本当の自分とか自分らしさって何でしょうか。自分のことは自分が一番わかっているつもりでも、例えば自分の体の中は他の人にしかわかりません。そしていつも同じつもりでいる「自分」なのに、体は食べた物をもとに入れ替わり、心もいろいろな出逢いによって変わっていきます。本当の自

分とは何でしょうか。まだ私にも答えは出ません。皆さんも社会に旅立てば自分らしさや個性、そして孤独について悩んだりするかもしれません。大いに悩んでください。おそらく答えらしきものはたぶん人と出逢ってつながら、そして自分を振り返る、そこからしか見えてこないと思います。

人生において出逢いが全てかもしれません。皆さん、これから少し勇気を出していろんな人や仕事などに出逢ってみてください。そして自分と出逢ってください。おそらくあなたのすぐ隣に出逢いはあります。そして分かち合い、支え合い、微笑みあうことで、人とつながり、たぶんあなたも変わります。秋高の同窓生はみんなつながっています。今日からあなたたちもその一員です。皆さんをこれからも応援しています。

吉成皮膚科クリニック

院長 **吉 成 力**
(昭和61年卒)

秋田市 将軍野 桂町 33-18
TEL 018 (847) 3712